

番号	課名
C - 1	保険健康課

事務事業名	人材育成貸付金事業(医学生等奨学資金)	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ソフト

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	I-1-2	医療・保健・福祉の連携
	施策の課題(事務事業の実施目的)	臼杵市の医療を支える人材の育成・確保を目的に、経済的な理由で修学が困難で、かつ医師または看護師を目指す方を対象とした奨学金制度です。	
	関連施策名(施策コード)	-	-

事業内容(経緯)	臼杵市の医療を支える人材の育成・確保を目的に、経済的な理由で修学が困難で、かつ医師または看護師を目指す方を対象とした奨学金制度です。県内の高等学校、専門学校、大学に対しても奨学金制度の広報活動を行いました。また、総務課と共に今年度18歳に到達する市民宛てに奨学資金のチラシを送付しました。
----------	--

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
①	医学生奨学生	奨学生人数	人	2	2	3	3	2
②	看護学生奨学生	奨学生人数	人	3	3	6	7	6
③	広報件数	制度の周知を図るために広報した学校数	校	9	8	8	8	8
④								

基本項目 コスト	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	将来における医師又は看護師の確保に係る一人当たりの費用(千円)					
	前年度(R5)	当該年度(R6)	会計	一般会計		説明・算式・引用	事業費(千円)÷貸与者数				
	7,200	4,950	内容	貸付金	コスト指標(単位当たりの費用)	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
			財源	一般財源			620	740	700	720	619

事業対象	本人又は保護者が臼杵市在住で、かつ将来市内の医療機関の業務に従事しようとする者	今年度の成果	令和6年度は新たに1名の看護学生に貸与しました。
------	---	--------	--------------------------

成果指標	指標名	臼杵市内の医療機関等への業務従事者数	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	卒業後、当該年度に市内の医療機関に勤務することになった人数。		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
	指標設定の理由	本奨学金制度の目的の一つとして市内の医療を支える人材育成、確保があるためです。	人	1	0	0	0	0

評価	有効性	効率性	評価の理由
	B A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	B A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	令和6年度は新規看護学生1名を含めると、医学生2名、看護学生6名に貸与しており、教育の機会均等の面では役割を果たしていますが、市内医療機関への勤務にはつながっておらず人材確保の面では効果が低いからです。

事業の問題・課題	看護師については、キャリアアップのため、助産師や保健師を目指す者や市外の病院に就職する者が多く、医師に関しては、卒業後に医局に所属し、医療機関での研修が必要となるため、即座に市内の医療機関での勤務に結びつきにくいという課題があります。
----------	---

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針
	概ね順調	貢献度 中	強化 施策に対する貢献度が大きいですが、効果・効率性に改善の必要があるため、現状の事務事業を強化します。

番号	課名
C - 2	保険健康課

事務 事業名	「うすき石仏ねっと」運営事業		新規・継続・単年	継続
	施策名 (施策コード)	I-1-2	医療・保健・福祉の連携	
	施策の課題 (事務事業の実施目的)	無駄の少ない安全で質の高い医療・介護サービスを提供するためには、専門職の連携が課題です。専門職に連携の「きっかけ」を与えることを目的に実施しています。		
	関連施策名 (施策コード)	-		

事業 内容 (経緯)	「うすき石仏ねっと」は無駄の少ない安全で質の高い医療・介護サービスを提供するための医療ICTネットワークです。令和6年度は近年のサイバー攻撃にも対応するため、NDRシステムを導入し、セキュリティ対策の強化を実施しました。また、大規模災害時に保健師の活動拠点となる社会基盤整備・災害支援センター(旧商業高校)にも「うすき石仏ねっと」の環境を整備しました。
------------------	--

行動 指標 (実施 状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績
①	石仏カードの発行枚数	石仏カードの発行枚数	枚	22,947	23,897	24,639	25,298	25,822
②								
③								
④								

基本 項目 コスト	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	石仏カード1枚当たりの事業費(円)					
	前年度 (R5)	当該年度 (R6)	会計	一般会計		説明・算式・引用	事業費：石仏カードを保有する臼杵市民の人数				
	10,707	9,884	内容	うすき石仏ねっと運営協議会に対する負担金	コスト指標 (単位当たりの費用)	数値の推移	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績
			財源	一般財源			610	540	600	611	572

事業 対象	医療、介護サービスを利用する臼杵市民	今年度 の成果	大規模災害時に保健師の活動拠点となる社会基盤整備・災害支援センター(旧商業高校)にも「うすき石仏ねっと」の環境を整備しました。
----------	--------------------	------------	---

成果 指標	指標名	石仏カード保有率	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	臼杵市民の石仏カード保有者数：臼杵市人口		R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績
	指標設定 の理由	専門職による連携体制を測ることができるためです。安心、安全な医療、介護サービスを提供するためには専門職による連携が必要であり、「うすき石仏ねっと」は連携する機会を与えているためです。	%	46	48	49	49	50

評 価	有効性	効率性	評価の理由
	A A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	B A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	検査データや服薬情報の活用は適切な治療、早期治療、重症化予防、救急時の初期対応に有効です。ただし、事業所や職種間で利用状況に差があり、改善の余地があります。

事業の問題・課題	「うすき石仏ねっと」加入者数及び参加施設数は増えており、連携する体制は進んでいる一方で、利便性の向上を図るためにシステムの改修も行ってはいますが、事業所間、職種間において利用状況に差があります。
----------	---

課長 評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針
	概ね順調	貢献度 大	向上 施策に対する貢献度が大きく、効果と効率性があるため、現状の通り今後も事務事業を維持向上します。

番号	課名
C - 3	保険健康課

事務事業名	がん検診事業	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ソフト

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	I-1-1	生涯を通じた健康な生活習慣の推進
	施策の課題(事務事業の実施目的)	市民の健康寿命延伸のためのがん対策	
	関連施策名(施策コード)	I-1-2	医療・保健・福祉の連携

事業内容(経緯)	がんを早期発見し、適切な治療を行うことでがんによる死亡を減らすことを目的に、胃がん検診・肺がん検診・大腸がん検診・乳がん検診(女性のみ)は40歳以上の方、子宮頸がん検診は20歳以上の女性の方に、がん死亡率の減少が科学的根拠に基づいて検証された5つのがん検診を実施しています。
----------	---

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
①	胃がん検診受診率	受診者数/対象者数(50~69歳)※国保加入者	%	男 10.6 女 14.8	男 21.8 女 21.1	男 20.8 女 17.6	男 18.2 女 17.9	男 17.5 女 18.3
②	肺がん検診受診率	受診者数/対象者数(40~69歳)※国保加入者	%	男 24.2 女 28.7	男 21.2 女 32.0	男 25.5 女 33.7	男 24.6 女 32.0	男 28.3 女 28.4
③	乳がん検診受診率	受診者数/対象者数(40~69歳)※国保加入者	%	27.2	40.1	46.1	30.7	30.1
④	子宮頸がん検診受診率	受診者数/対象者数(20~69歳)※国保加入者	%	21.6	36.9	29.9	33	31.4

基本項目	事業費の経緯(千円)	当該年度の事業費の内容		コスト指標(単位当たりの費用)	指標名	巡回子宮頸がん検診受診者一人あたりの費用(千円)					
		前年度(R5)	当該年度(R6)		会計	一般会計	説明・算式・引用	委託費等/巡回子宮頸がん検診受診者数			
	37,150	32,486	内容		委託費、需用費、役員費	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
			財源		一般財源		5.7	8.4	6.9	9.3	6.3

事業対象	各種がん検診対象者	今年度の成果	「うすきとくとく健診」にあわせ、がん検診受診勧奨を行いました。令和5年度の受診率と比べると、胃がんの女性が0.4ポイント、肺がんの男性が3.7ポイント伸びていますが、その他は0.7~3.6ポイント低下し、国の目標数値60%には届いていません。今後も受診率向上対策の取組が必要です。
------	-----------	--------	--

成果指標	指標名	がんの発見につながった割合	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	がん発見数/がん検診受診者数 ※()内はがん発見数		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
	指標設定の理由	がん検診の目的であるがんの発見率の向上を図り、国の示す許容値と比較することでがん検診の効果を確認していきます。		%	胃 0.28(3) 肺 0.06(2) 大腸 0.25(7) 乳 0.32(3) 子宮 0.00(0)	胃 0.25(3) 肺 0.16(6) 大腸 0.13(4) 乳 0.27(3) 子宮 0.00(0)	胃 0.09(1) 肺 0.13(5) 大腸 0.06(2) 乳 0.14(4) 子宮 0.00(0)	胃 0.25(3) 肺 0.08(3) 大腸 0.19(6) 乳 0.28(3) 子宮 0.05(1)

評価	有効性	効率的性	評価の理由
	A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	B:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率的性が低い	厚生労働省が提示するがん発見率の許容値はすべてのがん検診で国が示す数値を上回ることができました。地区巡回検診や館内検診でがん検診ができるよう、受診環境等を整えています。受診率は国が目指す60%以上には届かず低い状況です。がん検診実施の周知方法などを見直し受診率向上に向けた検討が必要です。

事業の問題・課題	検診実施場所として地区巡回検診、館内検診、個別検診を確保し、さらに地区巡回検診ではレディースがん検診の日を設けるなど受診率向上のために環境を整えています。職域健診を実施している健診センターへも子宮頸がん、乳がん検診の業務委託を行い、臼杵市民が、職場健診受診時に、女性特有のがん検診を受診できる体制を整えています。受診率の低下が課題です。
----------	--

課長評価	概ね順調	施策への貢献度	貢献度 大	今後の方針	強化	施策に対する貢献度が大きい。効果・効率的性に改善の必要があるため、現状の事務事業を強化します。
------	------	---------	-------	-------	----	---

番号	課名
C - 4	保険健康課

事務 事業名	帯状疱疹予防接種費用助成事業	新規・継続・単年	新規
		ソフト・ハード	ソフト

総合計画 (施策評価) との関連	施策名 (施策コード)	I-1-1	生涯を通じた健康な生活習慣の推進
	施策の課題 (事務事業の実施目的)	働く世代の50歳代以降で発症率が高まる帯状疱疹に対し、感染により重症化予防と休職による経済的損失を防ぐため、公費助成で接種費用を軽減し予防接種の機会を提供します。	
	関連施策名 (施策コード)	-	

事業 内容 (経緯)	働く世代の50歳代以降で発症率が高まる帯状疱疹に対し、感染による重症化予防と休職による経済的損失を防ぐため、公費助成で接種費用を軽減し予防接種の機会を提供しています。
------------------	---

行動指標 (実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績
①	市報、ホームページ等での情報提供	情報提供回数	回					4
②								
③								
④								

基本項目 コスト	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	助成にかかった一人当たりのコスト				
	前年度 (R5)	当該年度 (R6)	会計	一般	説明・算式・引用	帯状疱疹予防接種の助成にかかった費用/ 接種者数(単位:千円)				
		4,462	内容	帯状疱疹予防接種 委託料	数値の推移	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績
			財源	一般						16.0

事業対象	50歳以上の市民	今年度の 成果	令和6年度より50歳以上の市民に対し帯状疱疹予防接種費用助成を開始し、約280名の方に費用助成を行いました。
------	----------	------------	--

成果 指標	指標名	50歳以上の市民の接種率	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・ 引用	接種者数/年度内対象者数		R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績
	指標設定 の理由	50歳以上の市民が助成対象者のため		%				1.30

評価	有効性	効率性	評価の理由
	A A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	A A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	令和6年度から新規事業として開始しました。ワクチン価格が高額であるため費用助成導入について好評をいただいています。

事業の問題・課題	新たな接種費用助成導入は財政負担も大きいと、国の方針や他の自治体の動向を注視しつつ、慎重な検討を行い開始する必要があります。帯状疱疹の予防に限らず市民への感染予防に向けた周知・啓発も必要と考えます。
----------	---

課長 評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針
	概ね順調	貢献度 中	向上 施策に対する貢献度が大きく、効果と効率性があるため、現状の通り今後も事務事業を維持向上します。

番号	課名
C - 5	高齢者支援課

事務事業名	安生寮整備事業	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ハード

総合計画 (施策評価) との関連	施策名 (施策コード)	I-4-9	生活の安定と自立への支援
	施策の課題 (事務事業の実施目的)	経済的及び環境上の理由により、自宅での生活が困難な高齢者が市の措置により安心して暮らせる施設の確保を行います。	
	関連施策名 (施策コード)	VI-18-41 I-1-2	快適な住環境の確保 医療・保健・福祉の連携

事業内容 (経緯)	令和元年度、養護老人ホームを新たに整備・運営する法人を公募する方針(民設民営化)を出しましたが、現時点では民設民営化には至っていません。安生寮は建設から30年以上経過しているため、建物の老朽化も進んでいる状況ですが、入所者の安心・安全な暮らしを確保していくため、今後の民設・民営化を視野に入れながら、必要に応じて緊急度の高いものについて適宜修繕・工事を行うものです。
--------------	---

行動指標 (実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績
①	定期検査などによる老朽箇所の把握	定期調査等の結果や安生寮の指定管理者から指摘のあった老朽箇所の把握	箇所	2	2	8	8	6
②								
③								
④								

基本項目 コスト	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	入所者1人当たりの費用(千円)					
	前年度(R5)	当該年度(R6)	会計	一般会計		説明・算式・引用	事業費(施設の改修のみ)/60名(入所定員)				
	14,268	2,138	内容	修繕費、工事費	コスト指標 (単位当たりの費用)	数値の推移	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績
			財源	一般財源			3	69	51	238	36

事業対象	養護老人ホーム臼杵市安生寮の入所者及び職員	今年度の成果	工事を3箇所、修繕を3箇所、計6箇所の改修を実施しました。
------	-----------------------	--------	-------------------------------

成果指標	指標名	修繕・工事を実施した箇所	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	修繕・工事を実施した箇所		R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績
	指標設定の理由	入所者の安心・安全確保のため、老朽化に伴う修繕・工事を実施する必要があります。	箇所	2.00	2.00	8.00	8.00	6.00

評価	有効性	効率性	評価の理由
	A A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	A A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	適宜改修することで、入所者及び職員が安心・安全に生活できることが期待されます。必要最低限の改修を行い、軽微な修繕は指定管理者が対応することでコストを抑えるための対応をしています。

事業の問題・課題	現在の指定管理者である法人への委託期間が令和7年度末までとなっています。民設・民営化には建築資材等の物価高騰があり着手できていません。安生寮の在り方について早急な検討を行うとともに、老朽化が進んでいる状況において、入所者の安心・安全な生活の確保を最優先とし、修繕・工事を行っていく必要があります。
----------	--

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針
	概ね順調	貢献度 大	向上 施策に対する貢献度が大きく、効果と効率性があるため、現状の通り今後も事務事業を維持向上します。

番号	課名
C - 6	高齢者支援課

事務事業名	老人憩の家等改修事業	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ソフト

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	I-3-6	高齢者の生きがいづくりへの支援
	施策の課題(事務事業の実施目的)	各地区でのコミュニティ活動や地域サロン等の活動を行う場となる老人憩の家、公民館について、利用しやすい環境づくり	
	関連施策名(施策コード)	I-1-1	生涯を通じた健康な生活習慣の推進

事業内容(経緯)	各自治会からの要望に基づき、高齢者が利用しやすい施設とするためバリアフリー化や老朽化した箇所の改修について、市が設置した23箇所の「老人憩の家」については直接工事を、また各自治会が所有する集会所等については補助金を交付します。
----------	---

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
①	施設の改修数	老人憩の家等(地区集会所、公民館を含む)の修繕箇所数	箇所	12	15	19	18	18
②	改修要望件数	各地区からの改修要望件数	件数	32	40	43	37	44
③	改修実施率	改修要望に対する改修実施率	%	37.5	37.5	44.2	48.7	40.9
④								

基本項目	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	1件当たりにかかる改修費用(千円)					
	前年度(R5)	当該年度(R6)	会計	一般会計		説明・算式・引用	改修に係る費用総額/実施箇所数				
	13,628	13,284	内容	工事費、補助金、修繕料	コスト指標(単位当たりの費用)	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
			財源	地域福祉基金			998	725	745	717	738

事業対象	各自治会、老人憩の家利用者	今年度の成果	熱中症予防対策など高齢者が利用しやすい施設環境を整備することができ、施設利用の促進、有効活用が図られました。 令和6年度施設改修実施件数: 18件
------	---------------	--------	--

成果指標	指標名	施設の年間利用日数	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	老人憩の家年間利用日数(全施設の平均値)		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
	指標設定の理由	集会所の利用人数把握は難しいため、指定管理を行う老人憩の家の年間の利用日数を指標にしています。	日	36	34	35	35	35

評価	有効性	効率性	評価の理由				
	A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	B:改善の余地あり C:効率性が低い	高齢者の集いの場の確保は重要であり、環境整備により利用者の安心安全が確保されることは効果があると考えますが、その一方で少子高齢化の影響などで利用者もかなり減少している状況にあります。地区での改修や維持費用の捻出が厳しい状況において要望も多くあることから、事業の在り方を検討していきながら、安全面、健康面など考慮しを計画的に実施します。				

事業の問題・課題	憩の家、地区集会所は築年数が30年以上経過している建物も多く、エアコンなどの設備面も含め、改修工事が必要な案件が増えています。その一方で、少子高齢化の影響もあり、利用者が減少している状況もあります。今後は、旧臼杵市老人憩の家も含めた老人憩の家の方向性の検討や、地区集会所改修補助金での対応も含めて、全体的にも費用対効果を鑑み、改修について自治会と協議をしていく必要があります。
----------	--

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針
	概ね順調	貢献度 小	見直し 事業の効果はありますが、施策への貢献度が小さいため、貢献度に応じたものになるよう事務事業を見直します。

番号	課名
C - 7	子ども子育て課

事務事業名	子ども・子育て総合支援センター管理事業	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ソフト

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	I-2-3	安心して産み育てるための支援
	施策の課題(事務事業の実施目的)	妊娠期からから18歳までの切れ目のない支援を行う	
	関連施策名(施策コード)	-	

事業内容(経緯)	妊娠期から18歳までの様々な相談にワンストップで対応し、切れ目のない支援を提供するため、児童福祉、母子保健に係る事業に一体的に取り組んでいます。様々な相談を統括し、関係機関と連携を取りながら、体制と施設機能の充実を図っています。
----------	--

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
①	遊びのひろば来所者数	年間来所者数	日		3243	2317	2648	2700
②	相談対応件数	相談対応件数(来所)	件	2295	1619	832	1104	1064
③	サポートプラン策定会議回数	開催回数	回	-	-	-	10	12
④								

基本項目 コスト	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	来所者一人あたりのコスト					
	前年度(R5)	当該年度(R6)	会計	一般財源		説明・算式・引用	総事業費÷センター来所者数				
	3,102	3,355	内容	子ども子育て総合支援センター管理費	コスト指標(単位当たりの費用)	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
			財源	一般財源			-	-	590.0	500.0	550.0

事業対象	保護者・児童	今年度の成果	児童や家庭のケースに応じて、専門職や職員等が素早く共通理解を行い、対応しています。サポートプラン策定会議も定期的に開催することができました。
------	--------	--------	--

成果指標	指標名	センター来所者数	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	センター総利用者数のうち来所者の割合		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
	指標設定の理由	子育て中の保護者が気軽に利用できることにより、より丁寧な相談や専門職へのコーディネートができるようになり、細部への支援につながる。	%	-	90.00	80.00	75.00	79.00

評価	有効性	効率性	評価の理由				
	A A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	A A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	ちあぼーとに来所をして、子育ての困りや不安を個別に相談することができている。そこから、各専門職員が連携をし、多様な相談に応じたり、訪問をするなど確実な支援へつながっている。各専門職員がケースや実態に応じてその場で話しあいをしてサポートにつなげられるため、多様なケースに迅速に対応することができている。				

事業の問題・課題	遊びのひろばの利用や相談体制、訪問等の周知・定着により、総合的で切れ目のない子育て支援の拠点としての認知も定着してきています。相談内容の複雑化等に対応できるように、人員確保等今まで以上に支援体制の充実を図ることが必要です。
----------	---

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針
	概ね順調	貢献度 大	向上 施策に対する貢献度が大きく、効果と効率性があるため、現状の通り今後も事務事業を維持向上します。

番号	課名
C - 8	子ども子育て課

事務事業名	地域子育て支援拠点事業	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ソフト

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	I-2-4	地域における子育て環境の充実
	施策の課題(事務事業の実施目的)	教育・福祉の連携・接続の充実	
	関連施策名(施策コード)	I-2-3	安心して産み育てるための支援

事業内容(経緯)	乳幼児及び保護者が集い相互交流を行う場所を開設し、子育ての相談・情報提供等の援助を行うものです。地域子育て支援拠点の職員を対象に研修会を実施し、職員等の資質の向上を図りました。
----------	--

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
①	子育て支援「あのね」行事開催回数	リズム遊びや工作等、プログラム立案・企画・実施	回	105	135	128	137	149
②	ウスキッズ行事開催回数	ベビーマッサージや工作等、プログラム立案・企画・実施	回	84	136	164	156	192
③	よいこのへや、子育て支援センター童一時預かり事業利用者数	様々な理由で一時的に家庭保育が困難となる子どもの預かり	人	161	167	266	350	380
④	従事者連絡会及びスキルアップ研修会開催回数	研修や各拠点の取組みについてグループワーク等を実施	回	1	2	5	3	2

基本項目 コスト	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	利用者一人あたりの経費					
	前年度(R5)	当該年度(R6)	会計	一般会計		説明・算式・引用	事業費を利用者数で除した数				
	40,356	46,229	内容	委託費	コスト指標(単位当たりの費用)	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
			財源	国県補助金、一般財源			5,059	5,301	4,709	3,333	4,569

事業対象	乳幼児及びその保護者(乳幼児の子育てに関わる家族)	今年度の成果	拠点カレンダー等の広報物のデザインを利用者が見やすいように変更しました。また、各拠点との連携を密にし、スタッフのスキル向上のため市主催で研修会や連絡会を実施しました。
------	---------------------------	--------	---

成果指標	指標名	利用者数	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	拠点を利用する親子の総数		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
	指標設定の理由	乳幼児及びその保護者の利用希望があるか	人	7,653	7,412	8,343	12,106	10,116

評価	有効性	効率性	評価の理由				
	A A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	A A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	各拠点を1万人を超える方々が利用し、相談に対しては職員がケースや実態に応じて、その場で話しあい各種サポートにつなげられています。また、ファミリー・サポート・センターやホームスタート等ほかの支援の繋ぎ役としても貢献しています。				

事業の問題・課題	出生数の減少、3歳未満児の就園率の上昇に伴い、拠点の利用者数が減少傾向を示すことは推測できるが、利用者の個々の育児に対する支援については、今後ますます必要になるため、スタッフへの継続したスキルアップが必要です。
----------	---

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針
	順調	貢献度 大	向上 施策に対する貢献度が大きく、効果と効率性があるため、現状の通り今後も事務事業を維持向上します。

番号	課名
C - 9	子ども子育て課

事務事業名	病児・病後児保育事業	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ソフト

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	I-2-4	地域における子育て環境の充実
	施策の課題(事務事業の実施目的)	就業率上昇を見越した保育ニーズへの対応	
	関連施策名(施策コード)	-	-

事業内容(経緯)	0歳から小学校6年生までの児童を対象に病気のために集団生活が困難な場合や保護者が保育できない場合、保護者に代わり保育を行う事業です。病児保育のシステムを活用し、利用者がいつでもどこでも予約や施設の空き状況等確認できるよう取り組みました。
----------	--

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
①	広報数	市報・HPの掲載回数	回	-	14	5	3	5
②								
③								
④								

基本項目 コスト	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	受入れ病児・病後児一人あたりのコスト					
	前年度(R5)	当該年度(R6)	会計	一般会計		説明・算式・引用	総事業費÷受入れ病児・病後児数				
	21,078	28,905	内容	委託費	コスト指標(単位当たりの費用)	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
			財源	国県補助金、一般財源			55,480	19,247	33,167	16,327	21,964

事業対象	保護者・子ども	今年度の成果	新型コロナウイルスが感染症法上第5類になって以降、コロナ前の利用者水準まで上昇しています。 【利用者数】 (H31)1,334人→(R2)352人→(R6)1,316人
------	---------	--------	--

成果指標	指標名	延べ利用者数	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	延べ利用者数		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
	指標設定の理由	安定的に病児・病後児の受け入れができていますか	人	352	889	514	1,291	1,316

評価	有効性	効率性	評価の理由
	A A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	A A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率が低い	新型コロナウイルスに加え、インフルエンザ等の感染症も大流行しましたが感染防止対策を徹底したうえで提供体制を確保し、対応しました。また、利用児童数も増加傾向であるが、システム等を活用し効率よく受入れています。

事業の問題・課題	市外助成制度について、実績がないことから周知の方法を検討する必要があります。
----------	--

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針
	順調	貢献度 大	向上 施策に対する貢献度が大きく、効果と効率性があるため、現状の通り今後も事務事業を維持向上します。

番号	課名
C - 10	子ども子育て課

事務事業名	放課後児童健全育成事業	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ソフト

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	I-2-4	地域における子育て環境の充実
	施策の課題(事務事業の実施目的)	就労家庭の子どもたちにとっての、放課後の安心安全な居場所となる	
	関連施策名(施策コード)	-	-

事業内容(経緯)	保護者が就労等により昼間家にいない小学生の児童を対象とし、放課後等に適切な遊び及び生活の場を提供し、放課後の児童の健全な育成を図ります。児童クラブは社会福祉法人等に委託し、連携を取りながら児童の健全育成を図ります。放課後児童支援員の処遇改善の取り組みを行ないます。
----------	--

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
①	児童クラブ開設数	学区区ごとの開設	校区	11	11	11	11	11
②	市内の小中学校数	市内の小中学校数	校	13	13	13	13	13
③	登録児童数	月別登録児童数の平均×12か月の人数	人	7,522	7,496	7,255	7,406	7,692
④								

基本項目 コスト	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	年間の延べ登録児童数					
	前年度(R5)	当該年度(R6)	会計	一般会計		説明・算式・引用	登録児童一人当たりのコスト(千円)				
	122,059	157,157	内容	放課後児童健全育成事業委託料	コスト指標(単位当たりの費用)	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
			財源	一般財源,補助金					15.0	16.4	20.4

事業対象	保護者・児童	今年度の成果	引き続き、感染症防止対策を講じながら、安心で・安全な児童クラブの運営を行うことができています。放課後児童支援員研修を年2回実施し、支援員の質の向上を図ることができました。
------	--------	--------	---

成果指標	指標名	放課後児童クラブ利用率	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	全学区区に対する利用率(児童クラブ登録者数/児童生徒数(R7.3月時点))		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
	指標設定の理由	設置環境の改善等に活用する。	%	36.18	38.15	38.65	41.20	44.39

評価	有効性	効率性	評価の理由
	A A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	A A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	各クラブとも子どもの安心・安全な生活を考えた内容になっており、保護者が安心して預けることができています。登録児童数も増加し、待機児童もいないことから児童クラブの機能を十分果たしている。国県の補助もあることからコスト的にも効率的に運営ができています。

事業の問題・課題	職員の勤務態勢や、活動内容等各クラブの環境改善に務めながら、課題となっている支援員の高齢化や支援員不足への対処や、処遇改善も引き続き行っていきます。
----------	--

課長評価	施策への貢献度	今後の方針	
	順調	貢献度 大	向上

番号	課名
C - 11	子ども子育て課

事務事業名	臼杵市立下南こども園指定管理委託業務	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ハード

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	I-2-4	地域における子育て環境の充実
	施策の課題(事務事業の実施目的)	幼児教育・保育環境の充実を図ります。	
	関連施策名(施策コード)	I-2-3	安心して産み育てるための支援

事業内容(経緯)	公立認定こども園の運営・管理を社会福祉法人に指定管理委託し、効率的・専門的な運営と、安定した質の高い教育・保育サービスの提供を行いました。また、臼杵市保育士等キャリアアップ研修を実施し、私立幼児教育・保育施設とともに研修の機会を確保し、保育士等の専門性・資質の向上を図りました。
----------	---

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
①	公立認定こども園入所児童数(R2~1号認定含む)	対象児童数(3月1日時点)	人	81	81	81	77	59
②	保育士等キャリアアップ研修実施分野	キャリアアップ研修の実施分野	分野	-	-	1	2	3
③								
④								

基本項目 コスト	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	入所児童の預かりコスト					
	前年度(R5)	当該年度(R6)	会計	一般	説明・算式・引用	入所児童1人・1月あたりの預かりコスト 総事業費/延入所人数/12月					
	105,984	99,971	内容	指定管理料	コスト指標 (単位当たりの費用)	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
			財源	一般財源・県補助金・市外運営費等			-	-	8286.0	10179.0	12287.5

事業対象	臼杵市に住む0~5歳児及びその保護者	今年度の成果	延長保育、一時預かり、障がい児保育等を実施しており、保護者の多様なニーズに合わせて児童の受け皿を確保しています。
------	--------------------	--------	--

成果指標	指標名	受入児童割合	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	受入児童数/施設定員		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
	指標設定の理由	地域全体の保育需要と定員数に対し、定員設定が適切かを確認するため	%	101	101	101	90.2	73.70

評価	有効性	効率性	評価の理由
	A A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	A A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	毎年度、安定的に入所希望があります。また、園長が代わり、「笑顔あふれるこども園」実現に向けた「こどもファースト」の姿勢や、「笑顔あふれる人間関係」の確立などに取り組んでいます。また、私立園と同様の公定価格単価や国県補助金額を基に委託費(主に人件費)を算出し、効果的な運営を行っています。

事業の問題・課題	少子化による保育需要の減少が要因で入所児童数が減少傾向にあります。保護者にも、保育士にも選ばれる園を目指すため、さらなる職員全員(正規・パート)の専門性・資質向上が求められます。また、公立として災害時の他園の園児受入れ方法等について、検討し共有しなければなりません。
----------	---

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針
	概ね順調	貢献度 大	強化 施策に対する貢献度が大きいですが、効果・効率性に改善の必要があるため、現状の事務事業を強化します。

番号	課名
C - 12	子ども子育て課

事務事業名	子ども医療費助成事業	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ソフト

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	I-2-3	安心して産み育てるための支援
	施策の課題(事務事業の実施目的)	疾病の早期発見と治療を促進、保護者の経済的負担軽減	
	関連施策名(施策コード)	I-2-4	地域における子育て環境の充実

事業内容(経緯)	子どもの疾病の早期発見と治療を促進し、保健の向上及び保護者の経済的負担軽減を図ることを目的に、保険診療に係る自己負担部分を助成していません。平成27年7月からは小中学生の通院医療費についても助成対象としています。また、令和4年7月より、小中学生の一部自己負担額についても無償化しました。さらに令和6年4月から助成対象を高校生世代まで拡大しました。
----------	---

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
①	医療費助成額	医療費助成額(現物給付・未熟児・償還払い)	千円	103531	80538	94397	124540	135428
②								
③								
④								

基本項目	コスト	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	医療費 1件当たりの費用(千円)				
		前年度(R5)	当該年度(R6)	会計			説明・算式・引用	医療費助成額(現物給付・未熟児・償還払い) / 助成件数			
	128,717	139,491	内容	需用費、役務費、委託料、扶助費など	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	
			財源	一般財源		2.5	1.7	2.1	2.3	2.5	

事業対象	医療費助成の対象となる子ども及びその保護者	今年度の成果	令和6年4月から助成対象者を高校生世代まで拡大し、通院・入院などの医療費を無償化することで、保護者の経済的負担を更に軽減することが出来ました。
------	-----------------------	--------	---

成果指標	指標名	医療費助成件数	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	医療費助成延件数(現物給付) 県報告様式→合計→未就学小中高の合計件数		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
	指標設定の理由	-		件	41,476	46,345	44,615	55,063

評価	有効性	効率性	評価の理由				
	A A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	A A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	保護者の医療費の負担軽減になります。また、子どもの疾病の早期発見や、治療の促進につながっています。早期の受診につながる為、長期的な医療費の抑制につながりますが、より医療費を抑制するためには、疾病の予防や適正な受診について、啓発が必要です。				

事業の問題・課題	子どもへの医療費助成制度はほぼ全国の市町村で実施されています。県内では大分県の補助事業として実施されていますが、市町村の独自事業として自己負担を軽減していたり、助成対象を拡大している状況です。子ども医療助成制度は、社会保障制度として、どこに住んでも同じサービスが受けられるような仕組みが必要と考えます。
----------	---

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針	
	順調	貢献度 大	向上	施策に対する貢献度が大きく、効果と効率性があるため、現状の通り今後も事務事業を維持向上します。

番号	課名
C - 13	子ども子育て課

事務事業名	乳幼児健康診査(母子保健事業)	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ソフト

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	I-2-3	安心して産み育てるための支援
	施策の課題(事務事業の実施目的)	母子保健法第12条・13条に基づき、母性並びに乳児及び幼児の健康の保持及び増進を図るため、母子保健に関する原理を明らかにするとともに、保健指導、健康診査等を実施することを目的として実施しています。	
	関連施策名(施策コード)	I-1-1	生涯を通じた健康な生活習慣の推進
		I-2-4	地域における子育て環境の充実

事業内容(経緯)	対象児の保護者に案内通知を送付し、ちあぼーとにて集団形式で乳幼児健診を実施します。小児科医・歯科医・保健師・管理栄養士・歯科衛生士・視能訓練士等の専門職が診察・保健指導・相談等を行います。乳児は、医療機関での個別健診も受診できるよう受診券を交付しています。未受診者の保護者には電話連絡を行い、訪問・来所・子育て支援拠点施設等で身体計測や保健指導を実施します。また、5歳児健診・すこやか相談会を実施しています。
----------	--

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
①	乳幼児健康診査受診率	4か月・10か月・1歳6か月・3歳6か月児健診受診者数/対象者数×100	%	93.8	93.9	99.9	97.8	98.3
②	乳幼児健診受診者数	4か月・10か月・1歳6か月・3歳6か月児健診	人	769	605	620	619	584
③	健診未受診者への受診勧奨	受診勧奨数/未受診者×100	%	100	100	100	100	100
④								

基本項目	コスト	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	受診者一人当たりの費用(千円)				
		前年度(R5)	当該年度(R6)	会計	11.4.1.1		説明・算式・引用	総事業費(千円)/受診者数			
	2,340	3,984	内容	報償費、需用費、健診委託料、使用料及び賃料等	コスト指標(単位当たりの費用)	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
			財源	一般財源			2.9	4.8	3.8	6.4	6.8

事業対象	4か月児、10か月児、1歳6か月児、3歳6か月児とその保護者	今年度の成果	成長発達の確認や、医療もしくは精密検査が必要な乳幼児の早期発見、生活リズム・栄養指導などの保健指導を行いました。健康講話や保健指導に時間を使えるように、問診票をLogoフォームで回答する体制を整えました。
------	--------------------------------	--------	--

成果指標	指標名	3歳6か月児健診受診率	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	受診者数/対象者数×100		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
	指標設定の理由	3歳児健診は法定健診で、市がすべての対象児に対して実施する最後の乳幼児健診です。適切な支援を行うためには、健診を受診してもらう必要があります。		%	98.4	98.4	100.0	98.9

評価	有効性	効率的性	評価の理由				
	A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	B:改善の余地あり C:効率的性が低い	問診票と予防接種状況の写真をLogoフォームで事前に回答していただくことで、健診当日は健康講話や保健指導などに時間を使うことができているが、対象児が少なくなってきた分、事業をより効率的に実施する方法の検討が必要です。				

事業の問題・課題	未受診者勧奨は行っていますが、受診率が100%ではないことが課題です。	目標達成に向け、次年度以降の取組	住民が正確に診断を受けられたり、必要な保健指導を受けられるように、健診スタッフ用マニュアルを整えます。
----------	-------------------------------------	------------------	---

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針
	順調	貢献度 大	強化 施策に対する貢献度が大きいですが、効果・効率的性に改善の必要があるため、現状の事務事業を強化します。

番号	課名
C - 14	子ども子育て課

事務事業名	不妊治療費助成事業	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ソフト

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	I-2-3	安心して産み育てるための支援
	施策の課題(事務事業の実施目的)	不妊に悩む夫婦の不妊治療費用の一部を助成することにより経済的負担を軽減し、少子化対策の一環として、子どもを望む方の希望が叶うような環境づくりを推進することを目的としています。	
	関連施策名(施策コード)	-	-

事業内容(経緯)	不妊に悩む夫婦間の不妊治療に要する費用の一部を助成することにより経済的負担を軽減し、もって少子化対策の推進を図るため不妊治療日助成事業を行っています。令和4年4月より不妊治療費が保険適用となったことに伴い、制度変更を行い、年齢制限・回数制限を撤廃しました。また令和6年度より医療機関における不妊治療に要した費用のうち、1年度の治療あたりの助成上限額を10万円から20万円に引き上げています。
----------	---

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
①	人工授精治療費助成件数	費用助成を行った件数 ※R4年度より④に統合	件	10	12	-	-	-
②	不妊検査費助成件数	費用助成を行った件数 ※R4年度より④に統合	件	4	13	-	-	-
③	特定不妊治療費助成件数	費用助成を行った件数	件	11	22	14	9	13
④	不妊治療費助成件数(R4~)	費用助成を行った件数	件	-	-	12	16	15

基本項目 コスト	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	1件当たりの助成費用(千円) ※R4年度以降制度改正あり					
	前年度(R5)	当該年度(R6)	会計	一般会計		説明・算式・引用	不妊治療費助成額(扶助費分のみ)/助成件数				
	1,452	2,289	内容	負担金、扶助費	コスト指標(単位当たりの費用)	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
			財源	一般財源			-	-	81.6	90.7	141.0

事業対象	不妊症と診断され不妊治療を望む住民	今年度の成果	子どもを望む方の経済的な負担軽減につなげることができました。また、電子申請システムを活用し、事前相談や申請日の来所予約を可能としたため、よりプライバシーに配慮できるようになりました。
------	-------------------	--------	---

成果指標	指標名	助成による治療費のカバー率(扶助費分のみ)	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	申請された不妊治療費用全体のうち、助成額の占める割合。助成額÷申請額×100		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
	指標設定の理由	経済的負担の軽減を目的としているため	%	75.2	88.0	68.1	45.2	60.9

評価	有効性	効率性	評価の理由
	B A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	B A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	不妊治療費は一部保険適用になりましたが、それでも現在の助成上限額では、経済的負担が大きくなっており、そのため、助成上限額を見直し、より経済的負担の軽減につなげることで、子どもを望む方が不妊治療に安心して臨むことが出来ると考えます。

事業の問題・課題	不妊治療費全体に対する助成額のカバー率が前年度より上がったものの、治療費全体の6割程度であり、治療を行う方の経済的負担は依然として大きい状況です。また、不妊治療を受けておられても助成申請をされていない方もおられ、事業の周知方法等に課題があります。
----------	---

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針
	順調	貢献度 中	強化 施策に対する貢献度が大きいですが、効果・効率性に改善の必要があるため、現状の事務事業を強化します。

番号	課名
C - 15	子ども子育て課

事務事業名	妊産婦医療費助成事業	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ソフト

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	I-2-3	安心して産み育てるための支援
	施策の課題(事務事業の実施目的)	妊産婦の疾病の早期発見と早期治療の促進、母子の健康の保持及び増進	
	関連施策名(施策コード)	I-2-4	地域における子育て環境の充実

事業内容(経緯)	平成31年度より、安心して子どもを産み育てられる環境づくりのため、妊産婦の医療費の内、保険診療の自己負担分を助成する事業を行っています。妊娠届出時や出生時・転入時、赤ちゃん訪問時に説明を行い、母子手帳の交付を受けた(又は転入した)月の翌月初日～出産日の翌月末日までに診療を受けた「保険適用分の自己負担額」を助成しました。令和6年4月1日以降に母子健康手帳交付を受けた方からは、さらに対象期間を手帳を交付した日～出産の翌々月の末日までに拡大しています。
----------	---

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
①	妊産婦医療費助成額	妊産婦医療費助成額(償還払い)	千円	5,027	4,289	4,829	3,428	3,156
②	妊産婦医療費助成人数	妊産婦医療費助成申請者実人員	人	138	115	136	112	148
③	チラシ配布数	妊娠届出時のチラシ配布数	%	100	100	100	100	100
④								

基本項目	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	助成者一人当たりの費用(千円)					
	前年度(R5)	当該年度(R6)	会計	一般会計		説明・算式・引用	総事業費(千円)/助成人数				
	3,428	3,156	内容	扶助費	コスト指標(単位当たりの費用)	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
			財源	一般財源			36.4	37.3	35.5	30.6	21.3

事業対象	妊産婦医療費助成の対象となる妊婦及び産婦	今年度の成果	妊娠期からの支援充実として医療費助成を行うことで、経済的負担軽減を図り、妊産婦の方の早期受診と治療を促進し、安心安全な出産にもつながっています。
------	----------------------	--------	--

成果指標	指標名	妊産婦医療費助成件数	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	妊産婦医療費助成件数(償還払い)		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
	指標設定の理由	申請件数を評価し、助成事業を通して必要な受診ができたかを確認します。	件	1,505	1,368	1,382	1,503	1,351

評価	有効性	効率性	評価の理由
	A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率が低い	妊娠中の医療機関受診について「費用がかかるためあまり病院に行けなかったが、気にせず行こうと思えるようになった」との声もあり、必要な時に受診ができるような効果も得られています。医療費助成の効果として、生活習慣病や歯科(口腔)の管理等がしっかりと行えれば、安全な分娩につながるだけでなく、今後低出生体重児の出生の抑制効果が期待されます。

事業の問題・課題	4か月児健診時に実施したアンケートより、96.3%のご家庭が本事業を知っており、94.6%の方が満足しているが、申請している人の割合は70.5%でした。申請していない理由として申請を忘れていたり、少額のため申請していないことが挙げられます。また、妊娠届出前より妊娠悪阻があったり、産後も乳腺炎等体調を崩しやすいため期間を延ばしてほしいという意見がありました。
----------	---

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針
	概ね順調	貢献度 大	向上 施策に対する貢献度が大きく、効果と効率性があるため、現状の通り今後も事務事業を維持向上します。

番号	課名
C - 16	子ども子育て課

事務事業名	臼杵市支援対象児童等見守り強化事業(アウトリーチ型/居場所型)	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ソフト

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	I-2-4	地域における子育て環境の充実
	施策の課題(事務事業の実施目的)	支援が必要と認められる児童がいる家庭への支援及び児童虐待の発生予防	
	関連施策名(施策コード)	I-1-2	医療・保健・福祉の連携
		I-2-3	安心して産み育てるための支援

事業内容(経緯)	支援が必要な児童のいる家庭に対して、食料や日用品等を配布しています。委託先のさぼーとセンター風車と連携し、月に1~2回家庭訪問をしています。
----------	--

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
①	訪問回数	対象家庭への訪問回数	回	—	—	8	215	225
②	対象の世帯数	対象世帯の総数	件	—	—	5	13	16
③	対象の児童数	対象児童の総数	人	—	—	13	34	41
④								

基本項目	コスト	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	訪問回数				
		前年度(R5)	当該年度(R6)	会計	一般会計		説明・算式・引用	訪問回数1回あたりのコスト			
	9,729	9,866	内容	委託費	コスト指標(単位当たりの費用)	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
			財源	一般財源			—	—	—	58,964	43,849

事業対象	支援が必要と認められる児童がいる家庭	今年度の成果	令和6年度は、16世帯41名の児童を対象にサポートを行いました。食料や日用品等の配布を定期的に行うことで、家庭とのつながりの強化、児童虐待のリスクを減少させることができたかと捉えています。
------	--------------------	--------	--

成果指標	指標名	配布件数	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	食料や日用品などの総配布件数		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
	指標設定の理由	支援が必要な児童に在る家庭に対しての支援(食料や日用品の配布)を強化することができるかを把握するため	回	—	—	—	815	1,127

評価	有効性	効率性	評価の理由	
	A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	B:改善の余地あり C:効率性が低い	定期的に訪問を行い、対象家庭の機微な変化をキャッチし、支援に活かすことができました。2週間に1回の訪問頻度ですが、今よりも支援を強化するため、訪問頻度を増やしていきたいと考えます。	

事業の問題・課題	現状より支援(食料や日用品の配布)を強化していくために訪問頻度を増やすことが必要と思われる。2週間に1回の訪問が基本ですが、対象家庭によっては訪問頻度を高めて対応します。
----------	---

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針
	概ね順調	貢献度 中	強化 施策に対する貢献度が大きいですが、効果・効率性に改善の必要があるため、現状の事務事業を強化します。

番号	課名
C - 17	子ども子育て課

事務事業名	保育料の完全無償化事業	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ソフト

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	I-2-4	地域における子育て環境の充実
	施策の課題(事務事業の実施目的)	幼児教育・保育環境の充実を図ります。	
	関連施策名(施策コード)	I-2-3	安心して産み育てるための支援

事業内容(経緯)	【令和元年10月から第2子以降:全額補助】国の教育・保育無償化と同時に、多子家庭の子育てに対する負担を軽減する少子化対策事業(大分県独自事業)を拡充しました。合わせて、認可外保育施設に通う第2子以降の3歳未満児の無償化の範囲を拡充しました。 【令和5年4月から保育料完全無償化】これまでの取組に加え、本市独自施策として、3歳未満児戸籍上第1子の保育料を無償化しました。これにより、認可保育所等に通う0~5歳児の保育料が完全無償化となりました。
----------	--

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
①	保育料無償化対象延べ児童数	対象園児の延べ人数	人	-	-	-	3512	3756
②	認可外保育施設に通う園児数	対象園児の延べ人数	人	-	-	-	0	1
③								
④								

基本項目 コスト	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	一人当たりの保育料軽減コスト					
	前年度(R5)	当該年度(R6)	会計	一般		説明・算式・引用	保育料総額/無償化対象延べ児童数				
	113,032	125,082	内容	戸籍上第2子以降の保育料に対する補助金	コスト指標(単位当たりの費用)	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
			財源	大分にここにご保育支援事業費補助金			-	-	-	32185.0	33302.0

事業対象	臼杵市に住む0~5歳児及びその保護者	今年度の成果	国の保育の無償化以降、唯一保育料が発生していた戸籍上第1子の保育料無償化を図ることで、保育所等に通うすべての子育て世帯の経済的負担の軽減ができ、幼児教育・保育環境の充実を図ることができました。
------	--------------------	--------	--

成果指標	指標名	保育料の軽減割合	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	市及び県の保育料の軽減割合		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
	指標設定の理由	保護者の保育料負担の軽減割合を確認します。	%	-	-	-	100.00	100.00

評価	有効性	効率性	評価の理由
	A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	昨年度に引き続き、保育料の完全無償化を実現したことで、保護者の経済的負担の軽減及び幼児教育・保育環境等の充実を図ることができました。また、保育料の徴収事務が負担軽減され効率的になりました。

事業の問題・課題	第一子の割合の増加に伴い、本事業の対象者は昨年より増加傾向にありますが、少子化が進行する中、園児が少なくなっているため、一時預かり事業やこども誰でも通園制度等の事業をはじめとしたさまざまな子育て支援サービスの充実により、対象世帯の拡大を図る必要があります。
----------	--

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針
	順調	貢献度 大	向上 施策に対する貢献度が大きく、効果と効率性があるため、現状の通り今後も事務事業を維持向上します。

番号	課名
C - 18	子ども子育て課

事務事業名	子育て応援出生祝品贈呈事業	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ソフト

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	I-2-4	地域における子育て環境の充実
	施策の課題(事務事業の実施目的)	子育て世帯の経済的負担の軽減、商店街の振興	
	関連施策名(施策コード)	-	-

事業内容(経緯)	次代を担う子の出生を祝福するとともに、子どもの健やかな成長に寄与するため、令和3年4月1日以降に出生し、臼杵市に住民登録されたお子さんを養育する保護者等に対し、子一人につき2万円分の商品券を出生届の際に交付しています。
----------	---

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
①	商品券の交付人数	対象者に商品券の交付を行った件数	人	148	142	142	149	139
②	おむつ支給人数	おむつを支給した人数	人	148	-	-	-	-
③								
④								

基本項目 コスト	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	受領者一人当たりの費用(千円)					
	前年度(R5)	当該年度(R6)	会計	一般会計		説明・算式・引用	総事業費(千円)/受領者数				
	2,980	2,789	内容	報酬費、印刷製本費	コスト指標(単位当たりの費用)	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
			財源	一般財源			18.0	20.0	21.4	20.0	20.1

事業対象	臼杵市に住民登録した申請時の保護者等	今年度の成果	使用できる店舗の周知のため、商品券の封筒に使用例のチラシを同封し、配布時に紹介しました。
------	--------------------	--------	--

成果指標	指標名	満足度	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	健診時に実施したアンケートによる満足度		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
	指標設定の理由	アンケートを通じて、市民ニーズを反映した事業を実施することによって、市民の満足度の向上を図ります。	%	82.8	90.8	88.0	84.6	82.8

評価	有効性	効率性	評価の理由				
	A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	多くの方から「とてもありがたい」と喜びの声をいただいています。「産後は料理が出来ないため、惣菜の購入に使えた」「家計的な面で助かった」との声もあり、産後の母が休めるような効果も得られています。既存の商店街の商品券を活用して贈呈しているため、効率的で、また、商店街活性化にもつながっています。ほとんどの方が商品券を使用しており、効果は出ていると考えられます。				

事業の問題・課題	満足度は82%と高いのですが、商店街でどのように使ったら良いかわかりにくいので、店舗名の一覧表に加えて、使用例のチラシをお渡ししています。
----------	---

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針
	順調	貢献度 大	強化 施策に対する貢献度が大きいですが、効果・効率性に改善の必要があるため、現状の事務事業を強化します。

番号	課名
C - 19	福祉課

事務事業名	安心生活お守りキット事業	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ソフト

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	VII-21-50	防犯・見守り体制の充実
	施策の課題(事務事業の実施目的)	市民が自らを守る防犯意識を向上する取組や地域ぐるみでできる防犯活動の充実を図り、市民一人ひとりが「自分の身は自分で守る」という防犯に対する意識を高める体制の構築を目指します。	
	関連施策名(施策コード)	I-1-2 I-4-9	医療・保健・福祉の連携 生活の安定と自立への支援

事業内容(経緯)	70歳以上の高齢世帯や障がいのある方、健康に不安のある方などが、万が一の事態に備えるためのツールとして、「安心生活お守りキット」を冷蔵庫に設置します。また、地域内での見守り体制を強固なものにし、安心して生活を送ることができるような環境を整えることや、集めた情報を市が取りまとめ台帳を作成し、消防署、区長及び民生委員・児童委員で情報を共有することで、地域での見守り活動や救急、防災などに活用します。
----------	--

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
①	お守りキット普及のための説明会等の開催件数	福祉課職員が対応します	件	0	25	29	28	22
②	新規加入者件数	単年度の対象者からの申し出件数	件	37	689	314	301	341
③	救急搬送時におけるお守りキット活用件数	消防署からの報告を受けます	件	78	12	8	7	0
④	ひまわりサービス(年1回目)希望者世帯数	キット加入者からの希望による。※R4実施なし。	世帯	1526	1514	-	1396	1292

基本項目 コスト	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	お守りキット加入者 1人あたりの費用					
	前年度(R5)	当該年度(R6)	会計	一般会計		説明・算式・引用	総事業費/お守りキット加入者(円)				
	1,180	1,231	内容	消耗品費、通信運搬費、委託費	コスト指標(単位当たりの費用)	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
			財源	一般財源			345.8	448.0	227.3	220.1	242.1

事業対象	①70歳以上の一人暮らし②70歳以上のみの世帯③障がい者④健康に不安のある方等で配布を希望する方	今年度の成果	令和6年度の新規加入者数が341件、これまでの延べ加入者合計数が10,380件となりました。
------	--	--------	--

成果指標	指標名	お守りキット登録者数	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	年度末におけるお守りキット登録者数		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
	指標設定の理由	お守りキットを現在利用している人数がわかる	人	5,349	5,580	5,418	5,318	5,084

評価	有効性	効率性	評価の理由				
	A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	B:改善の余地あり C:効率性が低い	お守りキットは、区長、民生委員・児童委員による地域の見守り活動の基盤となっています。毎年度の更新作業にあたっては区長、民生委員・児童委員等が一軒ずつ声掛けを行い地域のつながりに役立っている反面、高齢者の増加により手間や時間がかかり負担となっています。				

事業の問題・課題	区長や民生委員・児童委員の協力により成り立っているお守りキットの更新作業や新規対象者への声掛けについて、区長、民生委員・児童委員の負担を減らしながら事業を継続していく方法を検討する必要があります。
----------	--

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針
	概ね順調	貢献度 中	見直し 事業の効果はありますが、施策への貢献度が小さいため、貢献度に応じたものになるよう事務事業を見直します。

番号	課名
C - 20	福祉課

事務事業名	臼杵市市民後見センター運営事業	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ソフト

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	I-4-9	生活の安定と自立への支援
	施策の課題(事務事業の実施目的)	臼杵市市民後見センターを中心として、認知症や知的障がい、その他の精神上の障がいがあることにより、財産管理や日常生活に支障がある人々を支えるため。	
	関連施策名(施策コード)	-	-

事業内容(経緯)	市民後見人の養成や法人後見の受任等に取り組み、成年後見制度全般に係る地域の調整役や相談窓口としての業務を担う「臼杵市市民後見センター」を運営しています。令和元年度には大分県初となる中核機関として位置付け、「地域連携ネットワーク」強化のための金融機関や青年会議所への広報に取り組みとともに、申立代理人や推薦する後見人についても「受任者調整会議」で検討を行い、適切な支援が行える環境を整えています。
----------	---

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
①	市民後見人の養成数	市民後見人養成講座の修了者数(単年度)	人	11	9	8	3	6
②	法人後見の受任件数	家庭裁判所から社協を後見人とする審判が下された件数	件	8	3	5	7	5
③	広報活動件数	既存の会議等に参加し、広報活動した件数	件	43	44	79	36	27
④	後見センターへの相談と活動件数	後見(あんサボ含む)に関する相談と活動件数	件	1656	1705	1880	1742	1822

基本項目	コスト	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	後見センターへの相談と活動件数				
		前年度(R5)	当該年度(R6)	会計	一般会計		説明・算式・引用	事業費/後見(あんサボ含む)に関する相談と活動件数(千円)			
	21,215	20,748	内容	委託費	コスト指標(単位当たりの費用)	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
			財源	一般財源、国庫支出金			10.1	12.4	11.2	12.1	11.3

事業対象	判断能力が不十分な方(精神・知的障がい者、認知症高齢者等)およびその親族等	今年度の成果	市民後見人養成講座を開催し6名が修了し、修了者の総数は139名となりました。受任者調整会議では、新規6件について適切な申立人や後見人等の候補者を検討しました。そのうち、市長申立が1件でした。
------	---------------------------------------	--------	---

成果指標	指標名	受任者調整会議での新規検討ケース数	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	受任者調整会議での新規検討ケース数		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
	指標設定の理由	後見センターのあり方と制度を必要とする方へアプローチの実績	件	9	5	5	4	6

評価	有効性	効率性	評価の理由				
	A A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	A A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率が低い	高齢化に伴い、成年後見制度利用者の増加が見込まれることから、臼杵市市民後見センターに委託して、市民後見人の養成や受任者調整会議によるケース検討、関係機関との連携、広報活動などを通じたニーズの増加に合わせた体制の強化を進めることは、有効性、効率性の観点から有効な手段です。				

事業の問題・課題	若年層への制度の正しい理解や認知度向上が課題です。出前講座など各ネットワークで利用しやすいよう取り組みを行っているが、利用者は高齢者が中心となっています。若年層へアプローチすることが、よりニーズにつながる可能性が大いにあるため、広報活動における新たな手法を検討することが必要です。
----------	--

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針
	順調	貢献度 大	強化 施策に対する貢献度が大きいですが、効果・効率性に改善の必要があるため、現状の事務事業を強化します。

番号	課名
C - 21	福祉課

事務事業名	社会福祉協議会補助金	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ソフト

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	I-4-9	生活の安定と自立への支援
	施策の課題(事務事業の実施目的)	地域福祉の推進のためには社会福祉協議会の安定的な運営が不可欠であるため補助金を支給します。	
	関連施策名(施策コード)	I-3-6	高齢者の生きがいづくりへの支援
		I-4-9	生活の安定と自立への支援

事業内容(経緯)	臼杵市社会福祉協議会は地域福祉の推進を目的に、地域やボランティア、関係機関、行政等の協力のもと、社会福祉事業、その他の社会福祉を目的とする事業の健全な発達及び社会福祉に関する活動支援を行っており、その運営を支援するために補助金を交付します。
----------	--

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
①	相談受付件数(総合相談事業等)	金銭、福祉サービス等日常生活に関する全ての相談と活動件数	回	1699	2061	1880	2034	2018
②								
③								
④								

基本項目	コスト	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	相談受付、活動件数(総合相談事業等)				
		前年度(R5)	当該年度(R6)	会計	一般会計	説明・算式・引用	事業費/相談受付、活動件数(千円)				
	25,563	25,563	内容	補助金	コスト指標(単位当たりの費用)	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
			財源	単費			15.0	12.4	13.5	12.5	12.6

事業対象	高齢者、障がい者、生活困窮者等	今年度の成果	様々な相談に対する対応、各種サービスや制度利用の提供及び各専門機関との連携した支援により、相談者が安心して地域で生活できる環境作りの手助けをして、地域福祉の推進を進めることができます。
------	-----------------	--------	--

成果指標	指標名	社会福祉協議会に相談して困りごとが解決した件数	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	安心サポート利用者、後見の受任者数、フードバンク対応件数、生活福祉資金新規貸付件数、生活困窮者終結者数、司法書士相談、心の専門相談件数		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
	指標設定の理由	社会福祉協議会に相談した人の困りごとが支援に繋がった件数		件	895	585	449	635

評価	有効性	効率性	評価の理由
	A A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	A A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	福祉的な課題を抱えた人の相談は多岐に渡り、その解決方法も様々ある中で、相談者の相談内容に合わせて様々な支援に繋げることができる社会福祉協議会の体制維持のために補助金を支出することは、有効性、効率性の面からみて有効な取り組みです。

事業の問題・課題	福祉的な課題を抱えた相談者の相談内容は多岐に渡り、すぐに解決できない課題も多いため、支援を行う支援者は相談者に寄り添い長い期間伴走支援等で関わり続ける必要があります。そのためケースによっては支援する側の負担が大きくなります。
----------	--

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針
	順調	貢献度 大	強化 施策に対する貢献度が大きいですが、効果・効率性に改善の必要があるため、現状の事務事業を強化します。

番号	課名
C - 22	福祉課

事務事業名	生活困窮者自立支援事業	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ソフト

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	I-4-9	生活の安定と自立への支援
	施策の課題(事務事業の実施目的)	生活困窮者に対して、社会福祉協議会を中心とした支援の充実を図り、自立に向けた生活支援、就労支援を含めた包括的な支援を行います。	
	関連施策名(施策コード)	-	-

事業内容(経緯)	生活困窮者の全体像を把握し、稼働年齢にある経済的困窮者が社会的に孤立しないよう、自立相談支援・就労準備支援・家計改善支援等を活用することにより、生活困窮からの脱却に向けた困窮者の自立支援策の強化を図ります。
----------	---

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
①	自立支援相談件数	社協でうけた新規相談件数	件	528	356	227	217	198
②	支援プラン作成件数	支援調整会議で決定したプラン件数	件	24	23	24	27	24
③								
④								

基本項目	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	自立支援相談件数(1件あたりのコスト)				
	前年度(R5)	当該年度(R6)	会計	一般会計		説明・算式・引用	事業費/自立支援相談件数(千円)			
	24,723	23,752	内容	委託料	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
			財源	一般財源、国庫支出金		52.4	80.0	125.4	113.9	119.9

事業対象	市内生活困窮者	今年度の成果	この事業を通じて、生活困窮から脱却し生活保護受給者の増加を抑制します。 令和6年度 自立支援相談件数: 198件 令和6年度 支援プラン作成件数: 24件
------	---------	--------	---

成果指標	指標名	プラン終了決定件数	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	支援調整会議で自立支援終了した件数		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
	指標設定の理由	プラン終結件数を評価するため	件	24	22	20	31	25

評価	有効性	効率性	評価の理由
	A A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	A A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	困窮者の家計立て直しに向けた家計改善や就労準備支援により、生活保護に陥らずに済む事例が数件ありました。 様々な理由により生活困窮となった対象者への支援には、多くの時間を要することになりますが、じっくり信頼関係を築き支援を行うことで自立に向けた実績に結びつけることができます。

事業の問題・課題	相談事業所からの、課題を抱えている人へのアウトリーチが緊急課題であり、就労準備と家計改善については、当事者が相談を受け入れるまでの時間もかかり、特に就労準備は長期的な支援が必要となるため、社会生活の改善まで伴走型の支援に時間をかけ継続する必要があります。
----------	---

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針
	順調	貢献度 大	強化 施策に対する貢献度が大きいですが、効果・効率性に改善の必要があるため、現状の事務事業を強化します。

番号	課名
C - 23	福祉課

事務事業名	臼杵市障がい者(児)相談支援事業	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ソフト

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	I-4-8	障がいのある人の社会参加・就労支援
	施策の課題(事務事業の実施目的)	障がいのある人が自らの選択と決定により主体的に行動し、社会のあらゆる活に参加しながら生きがいをもって生活できるよう、社会参加機会の提供を促進します。	
	関連施策名(施策コード)	I-4-9 I-1-2	生活の安定と自立への支援 医療・保健・福祉の連携

事業内容(経緯)	障害者総合支援法に基づき、障がい者(児)並びにその家族が生活上必要とする情報の提供や相談支援等を行うことにより、地域の中で自立した日常生活または社会生活を営むことができるようにするために相談支援事業を実施しています。障がい福祉サービスから日常生活までの全般に関する相談等を行いました。自立支援協議会は、各専門部会や全体会を通じ、全部会合同意見交換会や福祉フォーラムを開催し、地域課題の共有を行いました。
----------	---

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
①	相談件数	年間延べ相談件数	件	17,259	18,405	19,865	22,045	24,820
②	自立支援協議会開催回数	本会、正副会議、各専門部会の開催回数	回	32	40	47	47	47
③								
④								

基本項目	コスト	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	障がい者相談支援事業の相談件数				
		前年度(R5)	当該年度(R6)	会計	一般会計		説明・算式・引用	事業費/相談件数(円)			
	22,568	22,951	内容	委託料	コスト指標(単位当たりの費用)	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
			財源	国庫補助・県補助・一般財源			1259	1226	1136	1023	924.0

事業対象	障がい者(児)	今年度の成果	相談件数は増加傾向にある一方、障がい福祉サービス利用者は減少していることから、サービスにつながらない相談件数が年々増加していることがうかがえます。これは障がい者の悩みを相談により解消できたからだと分析しています。
------	---------	--------	--

成果指標	指標名	障がい福祉サービス利用者数	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	各種障がい福祉サービス(地域生活支援事業等)を利用した合計人数		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
	指標設定の理由	相談の結果、必要な支援につながった人数がわかる		人	11,507	11,563	11,595	11,795

評価	有効性	効率性	評価の理由	
	A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	B:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	障がい福祉サービス利用者の希望に沿ったサービスにつなげるために、利用者に寄り添った相談をすることから有効性は認められるものの、時間的かつ費用的な効率性は改善の余地がある。しかし、効率性を求めるあまり、丁寧な相談が疎かになっては本末転倒であることから、工夫をしながら対応することが求められる。	

事業の問題・課題	障がい福祉サービスが必要な方が、そのサービスを利用しながら地域で自立した生活を送ることができるよう、関係機関との連携を強化し、継続して事業周知を行っていく必要があります。
----------	---

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針
	順調	貢献度 大	強化 施策に対する貢献度が大きいですが、効果・効率性に改善の必要があるため、現状の事務事業を強化します。